

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-273620

(P2010-273620A)

(43) 公開日 平成22年12月9日(2010.12.9)

(51) Int.Cl. F 1 テーマコード (参考)
AO 1 K 87/06 (2006.01) AO 1 K 87/06 B 2 B 0 1 9
AO 1 K 87/08 (2006.01) AO 1 K 87/00 6 2 0 E

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2009-130207 (P2009-130207)	(71) 出願人	000002439
(22) 出願日	平成21年5月29日 (2009. 5. 29)		株式会社シマノ
			大阪府堺市堺区老松町3丁7番地
		(74) 代理人	100149342
			弁理士 小副川 義昭
		(72) 発明者	谷口 一真
			大阪府泉大津市東助松町2丁目10-32
		(72) 発明者	原田 孝文
			大阪府堺市御池台3丁54-11
		(72) 発明者	矢部 敬祐
			大阪府堺市南区御池台2丁55-6
		(72) 発明者	松本 聖比古
			大阪府堺市南区三原台1-11-1 以寿美荘
		Fターム(参考)	2B019 AA06 CB10

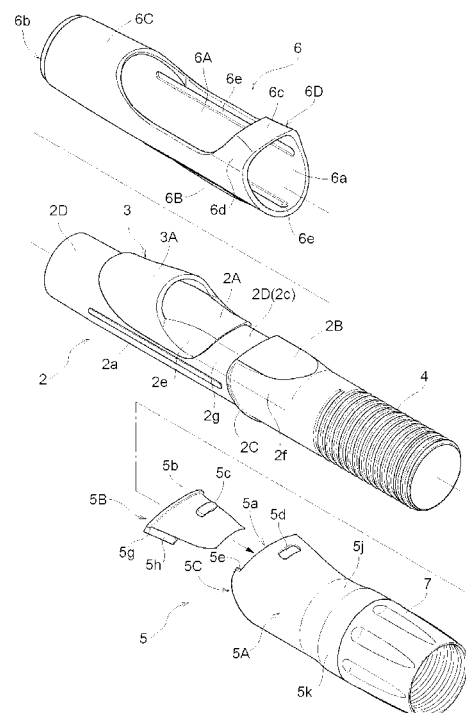
(54) 【発明の名称】 筒状リールシート

(57) 【要約】

【課題】 グリップ被覆体、及び、可動フードに対して効果的な改造を施すことによって、滑り難くかつ握り心地の良い筒状リールシートを提供する。

【解決手段】 可動フード5に、足部を挿入保持するフード本体5Aと可動フード5を竿軸芯方向に移動させるナット部材7との連結膨出部5kを設け、リール脚挿入保持部5aの存在部位と連結膨出部5kとの間に、小径に絞り込まれた指置き部5jを形成する。シートベース2に固定フード3とシートベース面を覆う軟質のゴムグリップ6とを設け、固定フード3の形成部位より竿軸芯Xを挟んで反対側に径方向の外方に突出する膨出部6Bをゴムグリップ6に形成してある。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

シートベースにリール脚の先端に屈曲形成した一方の足部を挿入保持する可動フードを設け、前記可動フードを竿軸芯方向に移動させるナット部材を可動フードに連結し、前記可動フードに、前記足部を挿入保持するリール脚挿入保持部を備えたフード本体と前記ナット部材との連結膨出部を設け、前記可動フードにおける前記リール脚挿入保持部の存在部位と前記連結膨出部との間に、前記連結膨出部より小径に絞り込まれた指置き部を形成し、

前記シートベースにおける前記可動フードに対向する位置に、リール脚の先端に屈曲形成した他方の足部を保持する固定フードと、前記シートベースの外周面を覆う前記シートベースより軟質のグリップ被覆体とを設け、前記固定フードの形成部位より竿軸芯を挟んで反対側に径方向の外方に突出する膨出部を前記グリップ被覆体に形成してある筒状リールシート。

10

【請求項 2】

前記グリップ被覆体における前記可動フードに対向する側端開口縁において、リール脚を載置する側に位置するリール脚がわ側端開口縁部に対して、前記膨出部が形成された側に位置する膨出部がわ側端開口縁部を、竿軸線方向において前記可動フード側に突出する状態に延出している請求項 1 記載の筒状リールシート。

【請求項 3】

前記グリップ被覆体の前記可動フードに対向する周縁部の外周面と、前記可動フードの前記固定フードに向う開口部の外周面と、前記周縁部と前記開口部との間に位置するシートベース面とが、面一状態で連なっている請求項 1 又は 2 記載の筒状リールシート。

20

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、筒状のシートベースにリール脚の先端に屈曲形成された足部を保持する可動フードと、シートベースにこのシートベースよりも軟質のグリップ被覆体を設けてある筒状リールシートに関する。

【背景技術】

【0002】

シートベース（公報内名称：リールシート本体 12）に、可動フード（公報内名称：移動フード 16）を装着し、可動フードより竿先側にグリップ被覆体（公報内名称：柔軟部材 32）を射出成形で一体的に装着していた（特許文献 1）。

30

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開 2008-271815 号公報（段落〔0018〕、〔0024〕、図 1～3）

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

40

【0004】

グリップ被覆体は、シートベースの外周面と略面一状態に形成してあった。したがって、水分の残った手指でリールシートを握り込むと手が滑る等の不具合が出て、釣り操作の円滑さを欠いていた。

【0005】

本発明の目的は、グリップ被覆体、及び、可動フードに対して効果的な改造を施すことによって、滑り難くかつ握り心地の良いリールシートを提供する点にある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

〔構成〕

50

請求項 1 に係る発明の特徴構成は、シートベースにリール脚の先端に屈曲形成した一方の足部を挿入保持する可動フードを設け、前記可動フードを竿軸芯方向に移動させるナット部材を可動フードに連結し、前記可動フードに、前記足部を挿入保持するリール脚挿入保持部を備えたフード本体と前記ナット部材との連結膨出部を設け、前記可動フードにおける前記リール脚挿入保持部の存在部位と前記連結膨出部との間に、前記連結膨出部より小径に絞り込まれた指置き部を形成し、

前記シートベースにおける前記可動フードに対向する位置に、リール脚の先端に屈曲形成した他方の足部を保持する固定フードと、前記シートベースの外周面を覆う前記シートベースより軟質のグリップ被覆体とを設け、前記固定フードの形成部位より竿軸芯を挟んで反対側に径方向の外方に突出する膨出部を前記グリップ被覆体に形成してある点にあり、その作用効果は次の通りである。

10

【0007】

〔作用効果〕

シートベースにおけるリール脚挿入保持部の存在部位と連結膨出部との間に、連結膨出部より小径に絞り込まれた指置き部を形成したので、リール脚の足部とリールシートとを共握りする指が指置き部に当てがわれることとなる。

そうすると、指置き部に当てがわれた指は、リール脚挿入保持部の存在部位と連結膨出部との間で絞り込まれた小径の指置き部において安定することとなる。

一方、グリップ被覆体においては、固定フードの存在側とは反対側において、径方向の外方に突出する膨出部を形成してあるので、リール脚の足部とリールシートとを共握りする手の掌の部分がこの膨出部に当てがわれる。

20

以上のように、固定フード側では、グリップ被覆体の膨出部によって手の載置状態が安定し、可動フード側では、指置き部によって指の握りが安定し、グリップ被覆体の膨出部と指置き部との協働作用によって、安定した握りで釣り操作を快適に行うことができる。

【0008】

〔構成〕

請求項 2 に係る発明の特徴構成は、前記グリップ被覆体における前記可動フードに対向する側端開口縁部において、リール脚を載置する側に位置するリール脚がわ側端開口縁部に対して、前記膨出部が形成された側に位置する膨出部がわ側端開口縁部を、竿軸線方向において前記可動フード側に突出する状態に延出している点にあり、その作用効果は次の通りである。

30

【0009】

〔作用効果〕

膨出部がわ側端開口縁部をリール脚がわ側端開口縁部に対して、竿軸線方向において可動フード側に突出するように延出したので、グリップ被覆体の膨出部がわ側端開口縁部を可動フードの存在側に張設範囲を広げることができる。

これによって、リールシートとリール脚の足部とを共握りする手の平に接触する部分をグリップ被覆体で広く覆うことができ、手の平を圧迫することがなく、かつ、痛みを感じ難いリールシートとすることができた。

【0010】

〔構成〕

請求項 3 に係る発明の特徴構成は、前記グリップ被覆体の前記可動フードに対向する周縁部の外周面と、前記可動フードの前記グリップ被覆体に向う開口部の外周面と、前記周縁部と前記開口部との間に位置するシートベース面とが、面一状態で連なっている点にあり、その作用効果は次の通りである。

【0011】

〔作用効果〕

つまり、グリップ被覆体とシートベース面と可動フードの外周面とが面一状態に構成してあるので、リールシートとリール脚の足部とを共握りする手の平に接触する部分を段差の少ない面にでき、手の平を圧迫することがなく、かつ、痛みを感じ難いリールシートと

50

することができた。

【図面の簡単な説明】

【0012】

【図1】釣り竿を示す全体側面図である。

【図2】グリップ被覆体と可動フードをシートベースに取り付ける前の状態を示す 分解斜視図である。

【図3】シートベースに可動フードを取り付ける前の状態を示す分解斜視図である。

【図4】シートベースに可動フード、グリップ被覆体を装着した状態を示す斜視図 である。

【図5】グリップ被覆体と可動フードをシートベースに取り付ける前の状態を示す 分解側面図である。 10

【図6】(a)シートベースに可動フード、グリップ被覆体を装着したリールシートを示す平面図、(b)シートベースに可動フード、グリップ被覆体を装着したリールシートを示す側面図である。

【図7】グリップ被覆体と可動フードをシートベースに取り付ける前の状態を示す 分解縦断側面図である。

【図8】シートベースに可動フード、グリップ被覆体を装着したリールシートを示す縦断側面図である。

【図9】可動フードをシートベースに装着した状態を示す縦断正面図である。

【図10】シートベースのリール脚の元側足部を載置する元側載置面とは180° 反対側の表面に、可動フードとの干渉を回避する為の凹入部を形成した状態を示す縦断側面図である。 20

【発明を実施するための形態】

【0013】

〔第1実施形態〕

本発明を釣り竿Aに適用する形態について説明する。

釣り竿Aは、図1～図4に示すように、握り部を備えた竿体としての元竿1に、スピニングリール10を取り付ける筒状リールシートBを装着し、筒状リールシートBのシートベース2に可動フード5を取り付けて構成してある。

【0014】

シートベース2には、可動フード5と協働でスピニングリール10のリール脚10Aの先端において竿先側に屈曲形成されている先側足部10aを保持する固定フード3が一体形成されており、固定フード3の形成部位より竿元側には可動フード5を移動駆動させるナット部材7を螺着する雌ねじ部4が設けてある。

図4, 8, 9に示すように、可動フード5には、リール脚10Aの先端において竿元側に屈曲形成されている元側足部10aを保持するフード本体5Aと、フード本体5A内に装着されている樹脂製の脚押さえ体5Bとが備えられており、フード本体5Aを竿軸線X方向に螺進移動させるナット部材7がそのフード本体に連結されている。

【0015】

シートベース2について説明する。

図5に示すように、シートベース2は、ポリエステル、ABS、PET等のエンジニアリング樹脂を使用した筒状体である。前記したように、竿先半部に外向きに盛り上がっている固定フード3を形成してあり、固定フード3のフード内部に入り込む状態で先側載置面2Aを形成してある。この先側載置面2Aでリール脚10Aの先端において竿元側に屈曲形成されている先側足部10aを載置支持すべく構成してある。

先側載置面2Aの竿元側に、位置決め用の環状鏝2Cが設けてあり、環状鏝2Cの更に竿元側に、可動フード5内に入り込む元側載置面2Bを形成してあり、この元側載置面2Bでリール脚10Aの先端において竿元側に屈曲形成されている元側足部10aを載置支持すべく構成してある。

【0016】

10

20

30

40

50

先側載置面 2 A の竿軸線 X に対して直交する面で切断した断面形状は、先側足部 1 0 a の背面に沿った円弧状断面を呈しており、先側載置面 2 A に先側足部 1 0 a を載置した際に、載置状態が安定するように構成してある。

【0017】

先側載置面 2 A の竿元側に、位置決め用の環状鏝 2 C が設けてあり、環状鏝 2 C の更に竿元側に、可動フード 5 内に入り込む元側載置面 2 B を形成してあり、この元側載置面 2 B でリール脚 1 0 A の先端において竿元側に屈曲形成されている元側足部 1 0 a を載置支持すべく構成してある。

【0018】

環状鏝 2 C は、図 2 及び図 5 に示すように、元側載置面 2 B の両横側方に幾分張り出した状態から略シートベース 2 の周面に沿って周回する状態で巡らされている。環状鏝 2 C より竿先側には、後記するグリップ被覆体としてのゴムグリップ 6 を被着する為の取付座 2 D が形成してある。取付座 2 D は、環状鏝 2 C より一段凹入する面に形成してあり、図 4 及び図 6 に示すように、ゴムグリップ 6 をこの取付座 2 D に装着した際に、ゴムグリップ 6 の外周面と環状鏝 2 C の外周縁とを面一状態に設定して、高さを揃えるように形成してある。ここに、環状鏝 2 C の外周縁をシートベース面と称する。

【0019】

図 2 及び図 5 に示すように、固定フード 3 は、取付座 2 D より一段突出する状態に外面 3 A が形成してあり、固定フード 3 の外面 3 A も、ゴムグリップ 6 を取付座 2 D に装着した状態で、そのコム製カバー 6 の外面と面一状態となるように構成してある。

取付座 2 D における固定フード 3 の存在側とは反対側の面（図面上では下側の面）と固定フード 3 の横側方側の面には、シートベース 2 の軸線方向に沿った突条 2 a が形成してある。この突条 2 a が取付座 2 D に装着したゴムグリップ 6 の内周面に形成した後記する長溝 6 e に係合して、ゴムグリップ 6 の捲れ上がりを抑制する構成を採っている。

【0020】

先側載置面 2 A と元側載置面 2 B との間にも、一段凹入する面としての繋ぎ部分 2 c が形成してある。この繋ぎ部分 2 c は取付座 2 D の他の部分と段差の無い状態に連なっており、先側載置面 2 A と元側載置面 2 B との間繋ぎ部分 2 c も取付座 2 D の一部を形成する。後記するゴムグリップ 6 を取付座 2 D に装着した状態で、ゴムグリップ 6 の外面と、先側載置面 2 A 及び元側載置面 2 B とが面一状態となるように構成してある。

【0021】

シートベース 2 におけるリール脚 1 0 A の先側足部 1 0 a と元側足部 1 0 a を載置する部位について詳述する。図 2 及び図 4 ～図 8 に示すように、先側載置面 2 A は断面形状としては前記したように、円弧状を呈する形状を採っているが、図 6 に示すように平面視では、竿元側に向う程、徐々に、左右方向での横幅を狭める形状を呈している。

一方、元側載置面 2 B は竿先側に位置する部分では略一定の広い横幅を呈し、竿元側端部において左右方向での横幅を狭める形状を呈している。図 6 に示すように、先側載置面 2 A と元側載置面 2 B との間でゴムグリップ 6 の取付座 2 D の一部を形成する繋ぎ部分 2 c においては、先側載置面 2 A の竿元側端の横幅 L 1 と元側載置面 2 B の竿先側端の横幅 L 2 とに連続的に繋がるような横幅を呈している。

【0022】

図 2、図 4、図 6 に示すように、先側載置面 2 A の両横側方には、皿状の左右の先側傾斜凹入面 2 e を形成してあり、この皿状の左右の先側傾斜凹入面 2 e は、竿軸芯方向に向けて僅かに凹入する形状に形成してあり、かつ、左右の先側傾斜凹入面 2 e における先側載置面 2 A 側に位置する端部ほど左右の間隔を狭める上向き（図面上で）の傾斜状態に形成してある。元側載置面 2 B の両横側方にも、同じように、上向きの元側傾斜凹入面 2 f を形成してあり、更に、取付座 2 D において繋ぎ部分 2 c 以外の周面部分は、取付座 2 D の一部を構成する円弧状面 2 g に形成してある。円弧状面 2 g は、取付座 2 D の一部を構成する部分であるので、竿先側に位置する斜め上向き先側傾斜凹入面 2 e と竿元側に位置する斜め上向きの元側傾斜凹入面 2 f よりも、ゴムグリップ 6 の厚みに相当するだけの深

10

20

30

40

50

さで凹入形成されている。

【0023】

次に、グリップ被覆体としてのゴムグリップ6について説明する。図2及び図4～図8に示すように、ゴムグリップ6は、NBR等のゴムを材料とした筒状体であり、取付座2Dに装着した状態で固定フード3をゴムグリップ6より突出させるように、楕円状の抜き孔6Aが形成してある。

【0024】

ゴムグリップ6における抜き孔6Aより竿先側の部分6Cは、竿先側の開口部6bに近接する程小径化する緩円錐筒状に形成してある。一方、ゴムグリップ6の竿元側にも筒状の竿元側の部分6Dが形成してあり、竿元側の部分6Dには図2における図面上で上面位置に足部10aを受け止める載置面部6cと、その載置面部6cの両横側方側に竿軸芯方向に向けて凹入する状態で、かつ、載置面部6c側に位置する端部ほど互いの左右間隔を狭めるように上向き傾斜状態にある皿状の左右の中間傾斜凹入面部（横側部分）6dが形成してある。

図4及び図6に示すように、中間傾斜凹入面部6dによって、ゴムグリップ6を所定位置に装着した際に、シートベース2に形成された斜め上向き傾斜凹入面2eとゴムグリップ6の斜め上向き傾斜面6dとが段差無く繋がることとなっている。

【0025】

図5～図8に示すように、抜き孔6Aの存在側とは180°反対側（図面上では下面）には、他の部分よりやや外方に膨出する膨出部6Bが設けてあり、この膨出部6Bに宛がわれる手指が滑り難いように、表面加工が施してある。つまり、表面の滑りを抑制するために、細かい凹凸を形成する梨地加工が施してある。

この膨出部6Bの内周面には、抜き孔6Aの存在側とは180°反対側（図面上で下側内周面）及び左右の両側面の3箇所に、竿軸線X方向に沿った細幅の長溝6eが形成してあり、ゴムグリップ6をシートベース2に装着した際に、シートベース2に突出形成した突条2aに細幅の長溝6eが外嵌係合して、ゴムグリップ6の位置決めを行うとともにゴムグリップ6の捲れ上がりを抑制する構成を採っている。

【0026】

以上のような構成になるゴムグリップ6を、図4に示すように、竿元側開口6aから取付座2Dに外嵌装着すると、ゴムグリップ6の外面が固定フード3の外面3Aと面一状態に、かつ、竿元側開口6aを囲む外縁（前記可動フードに対向する側端開口縁の一例）が環状鏝2Cに当接し、ゴムグリップ6の外面が環状鏝2Cの外面と面一状態に連なる。

【0027】

図4及び図6に示すように、ゴムグリップ6を取付座2Dに装着した状態で、先側載置面2Aと、元側載置面2Bと、ゴムグリップ6における載置面部6cとを、竿軸線Xに沿った方向で連続する足部載置面に形成する。図6(a)に示すように、足部載置面の横幅を、竿軸線Xに沿った方向で中間に位置する部分の横幅ほど絞り込んで狭くなるように形成してある。

【0028】

先側載置面2A、元側載置面2Bの両横側方に位置する部分を円弧面に形成するのではなく、前記した先側傾斜凹入面2eとして上向きの傾斜面に形成することによって、その両側方に対応する部分の外径を小さくでき、かつ、足部載置面の竿軸線に沿った方向で中間に位置する部分の横幅ほど絞り込んで狭くなるように形成したので、シートベース2に取付られたリール脚10Aの先側足部10a、及び、元側足部10aをそのシートベース2とともに握り込む際に握り易い。

しかも、後記するように、ゴムグリップ6を円弧状面2gに装着した際に、ゴムグリップ6に形成した中間傾斜凹入面6dが、竿先側に位置する斜め上向きの先側傾斜凹入面2eと段差なく連続する状態となるので、手指や掌を圧迫することが少なく、仕掛けの打ち込みや魚の釣り上げ操作を行う場合に、手が痛くならず負担も少ない。

【0029】

可動フード 5 について説明する。図 2 ～図 9 に示すように、可動フード 5 は、アルミニウムやチタン等の軽量金属製のフード本体 5 A と、そのフード本体 5 A のリール脚挿入用保持部 5 a に内装されるゴム製または合成樹脂製の脚押さえ体 5 B とを装備している。

脚押さえ体 5 B は、リール脚挿入用保持部 5 a に内装されるように、略円弧状を呈するものであり、フード本体 5 A の竿先側端に鏝部 5 b を突出させるとともに、左右中央部に突起 5 c を設け、この突起 5 c をフード本体 5 A の天井部分に形成した抜き孔 5 d 内に嵌合させて、脚押さえ体 5 B の位置決めを行っている。

【0030】

フード本体 5 A は、図 9 に示すように、断面形状として、シートベース 2 に外嵌する略 4 分の 3 円弧状を呈する部分と、図面上で略 4 分の 3 円弧状を呈する部分の上方に位置するアーチ状を呈するリール脚挿入用保持部 5 a とを一体形成した縦長い楕円状を呈するものであり、成形型で一体形成される。

フード本体 5 A は、前記したように、成形型で一体形成されるものであるために、シートベース 2 の外周面に密着する程高い成型性を示していないので、従来は、フード本体 5 A を所定位置に装着した状態で、円周方向でのガタ付きが出ることがあった。

【0031】

そこで、ズレ動き抑制機構 C を設けてそのガタ付きを抑制することとした。ここでは、まず、フード本体 5 A と脚押さえ体 5 B との取り付け構造について説明しその後ズレ動き抑制機構 C について説明する。

つまり、図 9 に示すように、フード本体 5 A における略 4 分の 3 円弧状を呈する部分とアーチ状を呈するリール脚挿入用保持部 5 a との接続部位近傍には、上向き段差部 5 e が設けてある。

一方、脚押さえ体 5 B には、左右の両下端部近傍の外面に下向き段差部 5 g が形成してある。脚押さえ体 5 B をフード本体 5 A のリール脚挿入用保持部 5 a 内に挿入した際に、脚押さえ体 5 B の下向き段差部 5 g がフード本体 5 A の上向き段差部 5 e に上方から当接して、脚押さえ体 5 B が装着支持される。

【0032】

脚押さえ体 5 B の左右両側下端部には、厚さの薄い袴部 5 h が下方に向けて延出してあり、袴部 5 h は下方に向って徐々に厚みを薄くする構成を採っている。一方、シートベース 2 の袴部 5 h に対応する外面は、前記したように、上向きに凹入傾斜する皿状の元側傾斜凹入面 2 f が形成してある。そして、袴部 5 h が元側凹入面 2 f に接触し受止られることによって、袴部 5 h の下端部をフード本体 5 A とシートベース 2 の外周面とで挟み込み固定するように構成してある。

【0033】

このような構成によって、可動フード 5 が脚押さえ体 5 B とともに、円周方向へ回転しようとしても、袴部 5 h の下端部がフード本体 5 A とシートベース 2 の外周面とで挟み込み固定されて回転が抑制される。したがって、可動フード 5 の円周方向でのガタ付きが抑制され、筒状リールシート B を握る手指が安定する。

【0034】

このように、金属製のフード本体 5 A ではなく、樹脂製またはゴム製の脚押さえ体 5 B に袴部 5 h を形成することによって、ズレ動き抑制機構 C を構成したので、フード本体 5 A とシートベース 2 の外周面とが多少の固体誤差を持って形成された場合にも、脚押さえ体 5 B の樹脂またはゴムの弾性変形力によって、袴部 5 h の下端部をフード本体 5 A とシートベース 2 の外周面とで挟み込み固定する状態が確実に維持されて、良好なズレ動き抑制機能を発揮するズレ動き抑制機構 C が構成される。

【0035】

図 2 ～図 6 に示すように、可動フード 5 のフード本体 5 A は、リール脚 10 A を保持するリール脚挿入用保持部 5 a から竿元側に向けて外径が細くなる中間縮径部（指置き部の一例）5 j を形成してあり、中間縮径部 5 j より竿元側に中間縮径部 5 j の外径より大径の受止部 5 k を形成してある。大径の受止部 5 k の位置で可動フード 5 のフード本体 5 A

10

20

30

40

50

とナット部材 7 とを相対回動しながら、竿軸線 X 方向に沿って一体でスライド移動自在に連結している。ここに、受止部 5 k を連結膨出部とする。

【0036】

以上のような構成により、リール脚 10 A と筒状リールシート B とを共握りして釣り動作を行う場合に、手の掌がゴムグリップ 6 の膨出部 6 B に掛けて竿先側への移動が抑制される状態にあり、小指が可動フード 5 の中間縮径部 5 j に掛けて受止部 5 k によって竿元側への移動が抑制されており、握りの状態が安定する構成となっている。

【0037】

図 2 ～ 図 6 に示すように、ゴムグリップ 6 を受け止める環状鏝 2 C は、元側載置面 2 B を除く全周面に亘って巡らされており、元側載置面 2 B 存在側とは 180° 反対側に至る程、竿元側に偏位するように形成されている。このような構成によって、環状鏝 2 C に当接して位置決めされるゴムグリップ 6 の竿元側端（膨出部がわ側端開口縁部の一例）は、元側載置面 2 B 存在側の側端（リール脚がわ側端開口縁部の一例）とは 180° 反対側において、竿元側のナット部材 7 に近接する方向に入り込んで位置することとなる。つまり、図 5 に示すように、環状鏝 2 C の竿先端側において想定した基準線 Y よりも、ゴムグリップ 6 の竿元側端は、竿元側に延出されている。

【0038】

しかも、可動フード 5 においても、図 5 及び図 7 に示すように、フード本体 5 A の竿先側端 5 C の開口縁の側面視形状は、リール脚挿入保持部 5 a を形成する上半部 5 f とシートベース 2 に外嵌される下半部 5 p との中間位置に対応する部分が、最も竿先側に突出する形状に形成してある。下半部 5 p では、環状鏝 2 C に沿うように、リール脚挿入保持部 5 a の存在側とは 180° 反対側に至る程、フード本体 5 A の竿先側端 5 C の開口縁の側面視形状が竿元側に偏位する状態に形成されている。

したがって、環状鏝 2 C と可動フード 5 とが共にリール脚載置側とは 180° 反対側の面において竿元側に偏位した形状を呈するので、前記した基準線 Y よりも竿元側において、ゴムグリップ 6 が竿元側に入り込んで露出する状態にある。

【0039】

このような構成によって、リール脚 10 A をシートベース 2 と共に握った手指における親指部分がゴムグリップ 6 に当てがわれることとなって、圧迫感を感じる事が少ない。

【0040】

なお、図 1 及び図 4 に示すように、可動フード 5 は、環状鏝 2 C に当接することによって、固定フード 3 の存在側への移動が規制されている。つまり、可動フード 5 のリール脚挿入用保持部 5 a に装着された脚押さえ体 5 B の左右両側端が、環状鏝 2 C の上端に当接するとともに、フード本体 5 A の竿先側端 5 C も環状鏝 2 C に当接して、固定フード 3 側への移動が規制される。

このような構成によって、可動フード 5 の外周面と環状鏝（シートベース面の一例） 2 C とゴムグリップ 6 の外周面とが略面一状態に連なることとなり、その部分を握る手に圧迫感を与えることが少ない。

【0041】

図 3 及び図 7 ～ 図 9 に示すように、可動フード 5 のリール脚挿入用保持部 5 a とは 180° 反対側には、内向きに突出する係合突起 5 n が設けてあり、シートベース 2 の竿元端に設けてある雌ネジ部 4 に形成したガイド溝 4 a に係合突起 5 n を係合させることによって、可動フード 5 をナット部材 7 の回転によって、シートベース 2 の軸線方向に沿ってスライド移動可能に構成してある。

【0042】

図 3、図 5 及び図 7 に示すように、シートベース 2 における元側載置面 2 B 存在側とは竿軸芯 X を挟んで反対側には、竿軸芯 X に向って凹入する凹入部 2 d を形成してある。

凹入部 2 d は、ガイド溝 4 a の竿先端と環状鏝 2 C との間において、円周方向での横幅が略 30° 位に亘る範囲に凹入形成されている。尚、凹入部 2 d としては、可動フード 5 との干渉を回避する範囲で、円周方向での横幅を 30° から 90° に至る範囲で採っても

10

20

30

40

50

良い。

【0043】

このような凹入部 2 d を設けた理由は次のようなものである。

つまり、リール脚 10 A を保持すべく、可動フード 5 がナット部材 7 とともに移動すると、脚押さえ体 5 B がリール脚 10 A の元側足部 10 a の甲部分に形成された傾斜面 10 b に乗り上げる状態になるので、可動フード 5 は、リール脚 10 A の元側足部 10 a によって持ち上げられたような状態となり、シートベース 2 に対して偏芯した状態となる。

【0044】

そうすると、可動フード 5 のフード本体 5 A における固定フード 3 側に向う開口縁において、リール脚挿入用保持部 5 a とは反対側の端縁がシートベース 2 の外周面に食い込むような状態になる。

10

【0045】

シートベース 2 の表面には、ウレタン樹脂塗料やエポキシ樹脂塗料等の適宜塗料が選択されて、刷毛や吹き付けによって塗装されている。

そうすると、前記反対側の端縁がシートベース 2 の外周面に食い込むような状態になると、塗装面が剥がれる等の不具合が起こり得る。

そこで、前記したように凹入部 2 d を形成してあるので、可動フード 5 の反対側端縁がシートベース 2 の外周面に食い込むことが抑制されて、塗料が剥がれる等の不具合を抑制することができる。

【0046】

20

〔第 1 実施形態における別実施形態〕

(1) グリップ被覆体 6 としては、ゴム製でなくともよく、シートベース 2 の材質より軟質の材料で構成されていればよい。

(2) 前記実施形態においては、グリップ被覆体 6 における可動フード 5 に対向する側端開口縁において、リール脚を載置する側に位置するリール脚がわ側端開口縁部に対して、前記膨出部が形成された側に位置する膨出部がわ側端開口縁部を、竿軸線方向において突出する状態に延出している状態を示した。ここでは、リール脚がわ側端開口縁部に対して、膨出部がわ側端開口縁部を、竿軸線方向において同一位置に位置するように、側端開口縁の形状を竿軸線 X に対して直交する面に平行な面で切断した面に形成してもよい。

(3) 前記実施形態においては、グリップ被覆体 6 と、環状鏝部 2 C と、可動フード 5 とが面一状態で連なっている構成について説明したが、少なくとも、いずれか一つが径方向において、突出する構成を採ってもよい。

30

【0047】

〔第 2 実施形態〕

第 1 実施形態の内、シートベース 2 に環状鏝 2 C を形成していない実施形態のものを第 2 実施形態とする。環状鏝 2 C を設けていない部分は、シートベース 2 における他の外周面と面一状態に形成する。

【0048】

〔第 3 実施形態〕

第 1 実施形態の内、シートベース 2 に凹入部 2 d を形成していない実施形態のものを第 3 実施形態とする。凹入部 2 d を形成しない部分は、シートベース 2 における他の外周面と面一状態に形成する。

40

【0049】

〔第 4 実施形態〕

第 1 実施形態の内、ズレ動き抑制機構 C は設けない実施形態のものを第 4 実施形態とする。従って、脚押さえ体 5 B の袴部 5 h は形成しない。

【0050】

〔第 5 実施形態〕

第 1 実施形態の内、シートベース 2 には先側傾斜凹入面 2 e と元側傾斜凹入面 2 f とを形成していない実施形態のものを第 5 実施形態とする。従って、シートベース 2 の先側載

50

置面 2 A と元側載置面 2 B の両横側方には、傾斜面ではなく、円弧面を形成してもよい。

【産業上の利用可能性】

【0051】

本願発明は、筒状リールシート B を装備する磯竿、船竿等に適用することができる。

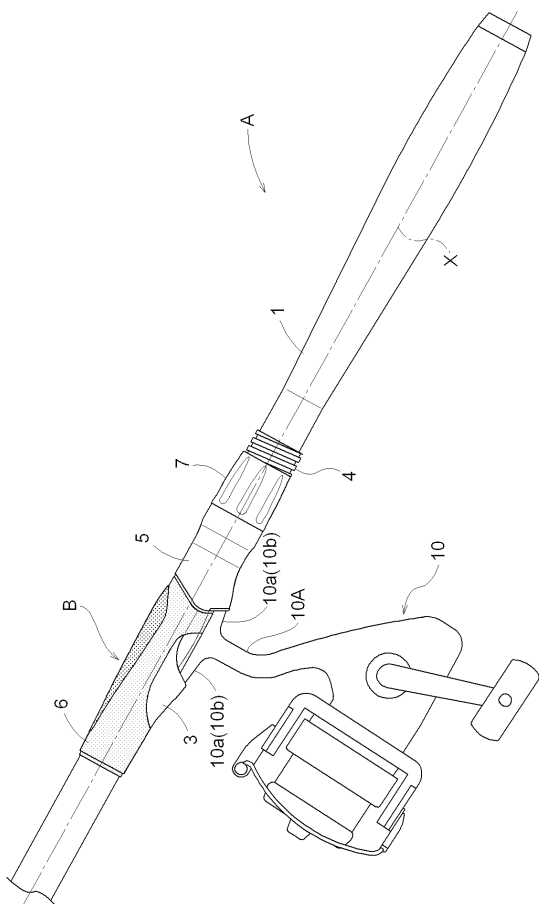
【符号の説明】

【0052】

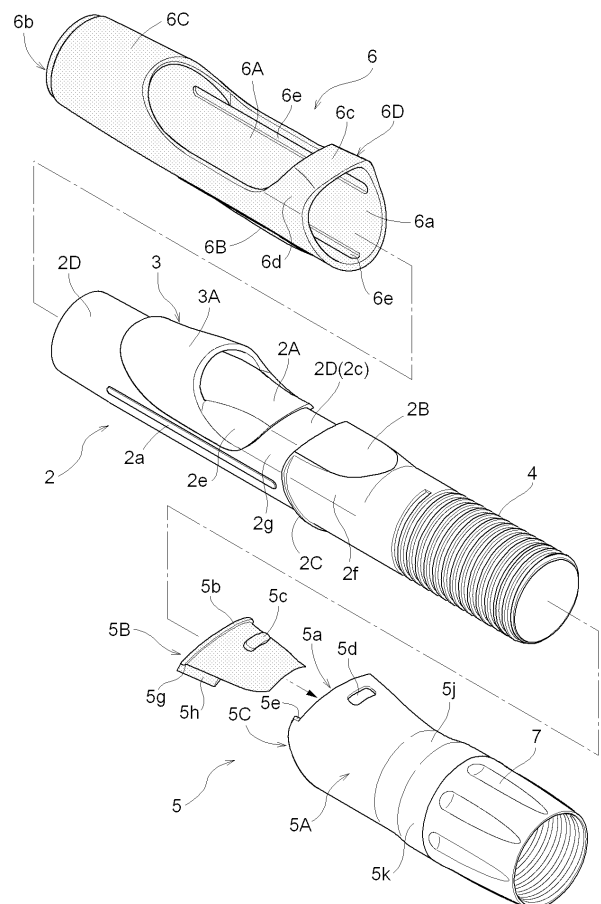
2	シートベース
5	可動フード
5 A	フード本体
5 a	リール脚挿入用保持部
5 j	中間縮径部（指置き部）
5 k	受止部（連結膨出部）
6	ゴムグリップ（グリップ被覆体）
6 B	膨出部
7	ナット部材
10 A	リール脚
10 a	足部
X	竿軸芯

10

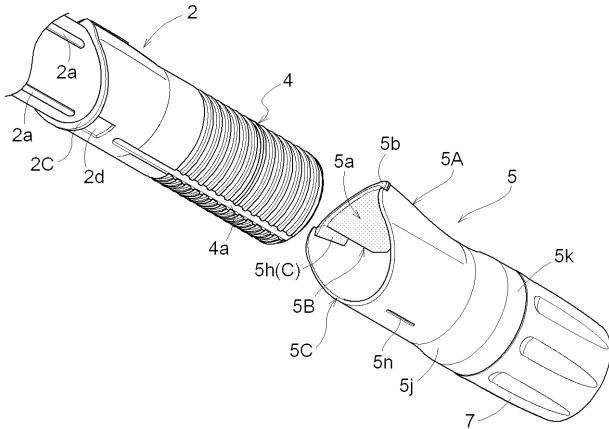
【図 1】



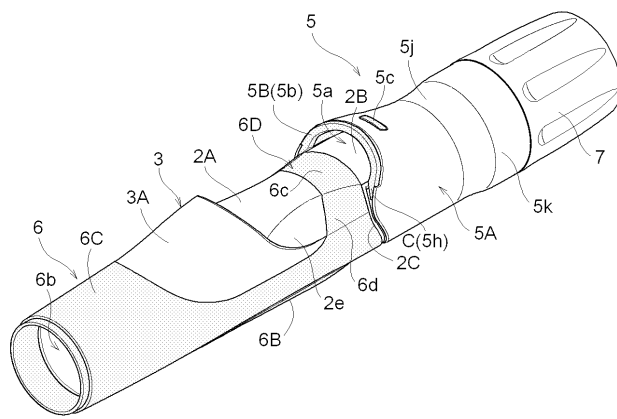
【図 2】



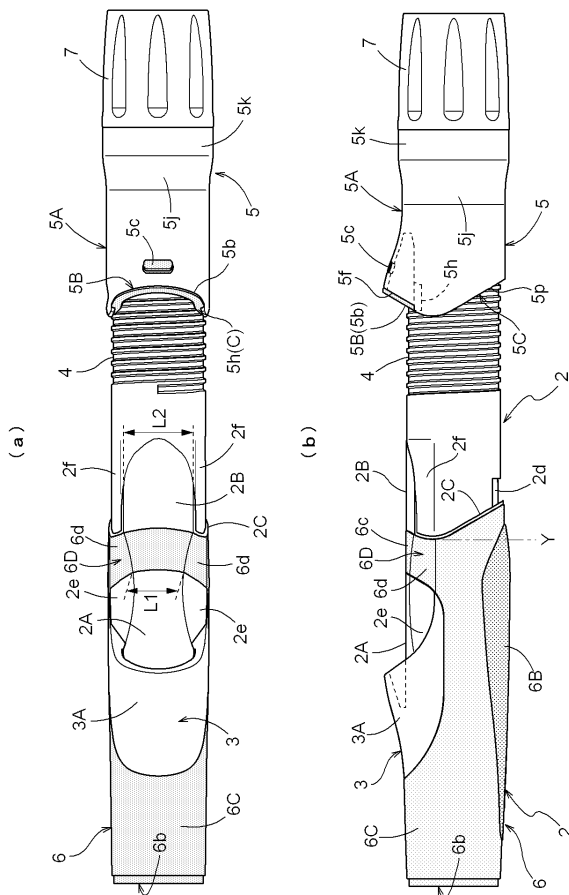
【図 3】



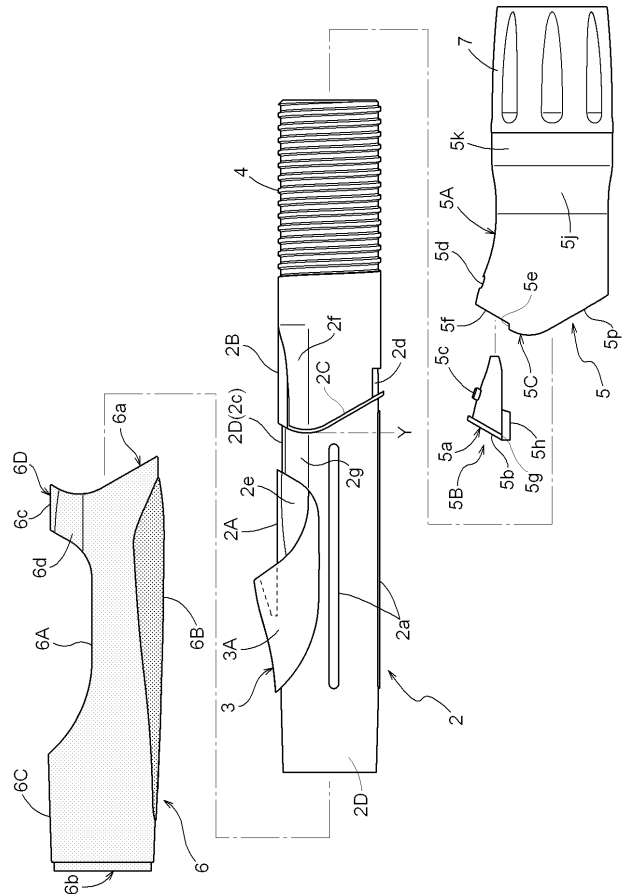
【図 4】



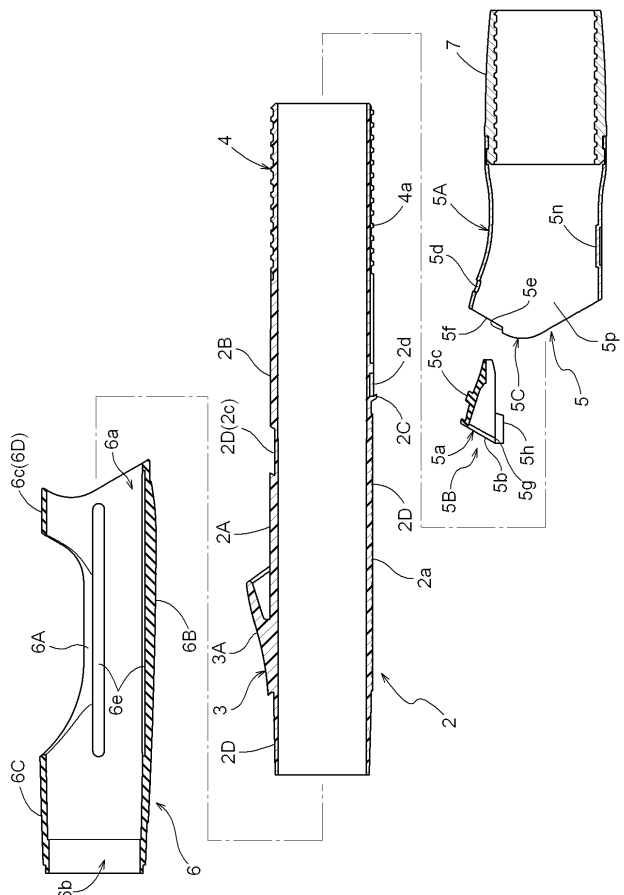
【図 6】



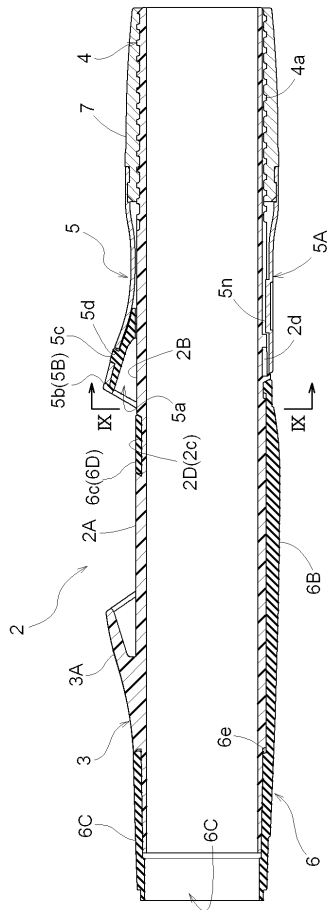
【図 5】



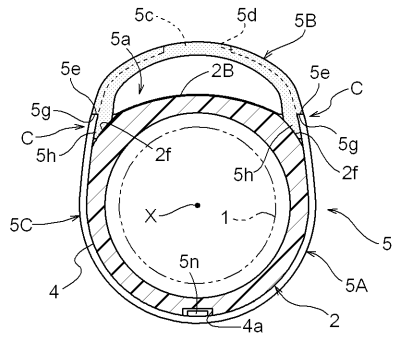
【図 7】



【図 8】



【図 9】



【図 10】

